

よびよびふりらん

1年 うさみけしたろう

これから、予備予備フリーランの事について、色々書かなければならないけれど、なにせ五ヶ月前の話なので、途中、フィクションが多少加わるかもしれないことを、初めに断っておきます。今年の予備予備ランは、7月7日に日光の日塩もみじラインを走った。東工大サイクリングクラブに入るまでサイクリング経験がほとんどなかった私にとっては、初めての本格的なものに近いフリーランだった。まず予備予備ランの前日の出来事から話を始めることにします。

私は千葉県、船橋市から通学しているのですが、当日予備予備ランに参加するためには、大学近くの下宿している誰かの所へ泊めてもらうつもりでした。ところが泊めてもらおうと期待していた村瀬氏が団舎の岐阜へ帰ってしまったらしく、しばらく顔を見せない。途方にくれていると嶋氏が友人の下宿を確保し、その友人は親元へ帰り、下宿には誰もいないとのこと、そこで私は嶋氏と二人で友品公にあるその下宿に泊まることにした。その晩、私は初めて、東京都世田谷区にも蚊という生物が大量に生息していることを確認した。下宿の部屋に入って、しばらくテレビを見たり、マンガ本を読んだりして時間をつぶして寝ようという事になり我々は寝床へつこうとしたが、そろそ

る本格的な夏が近づきはじめたので暑くて寝苦しい、そこで窓を少しあけて寝ることにした。その開けた窓から蚊が大量に侵入してきた。ブンブンブンブンの大合唱が始まって、その音を聞いただけでも体中がかゆくなる。そう思っていて、蚊に血を吸われて本当にかゆくなる。もうかゆくてかゆくて寝られたものでない。そこで蚊とり線香をつけようと思ったが、勝ちしらない他人の下宿なのでそれが見つからない。しかたなしに窓を閉めたが、高級住宅地の下宿らしく窓にすきまがすごく多い、そこから蚊がまた大量に侵入してくる。こうなったら根性で寝てやろうと思い、暑いのにふとんを頭までかぶって必死に寝ようとした。しばらくするとうとうとしてきた、ところがその時蚊がこどもあつうに、私の耳の中にまで入りこんでキヤかった。、ぺんで眠けがさめてしまった。丈夫友嶋氏はもう眠ってしまったらしい。こうして私は一晩蚊に馬鹿にされてゐるうちに夜が明けってしまった。

フリーランの当日、重い鞆行袋をエッコラエッコラ部屋から東武浅草駅まで運んでゆくと、すでに本日参加するほとんどの人が、これから乗って行く電車の中に入った。ただし浅草まで自転車に乗ってきたある人が、鞆行袋を忘れて、また取りにひきかえして行ったとのことで、その列車に乗っていなかった。(ある人とはこの予備予備ランのコースを最初に言いだした人だ)

た。) 昨晚ほとんど眠っていないので、列車の中でうつつらうつつらしているうちに鬼怒川公園駅についてしまった。駅を出て駅前
で鞆行袋をいさぐる、私にとっては初めての鞆行だったので、
ああだこうだと考えながら自転車を組み立てていると、駅附近
にいた人達が、もの珍らしそうに見物しにきた。私達の近くで
すわりこんで様子を見ているひまな人もいた。この初めての鞆
行以来、私は駅で自転車を組み立てたりバラしたりしていると
必ず何人かの見物人がくることを知った。ほぼ全員、自転車の
組み立ても終わりさあ出発しようと言っていると、駅前の道を
さき鞆行袋を忘れた人が自転車に乗ってやってくる。私は東
京からその人が自転車に乗ってやってくるように錯覚したので
びっくりしていると、存人のことはない。この手前の駅まで特
急でやって来てそこから自転車でやってくる。さて、
初夏の日ざしの中、私達は一列に並んで日塩もみじラインに向
った。最初のうちは、左手に鬼怒川が見えて、道を平ら、日ざ
しも柔らか、いい気分自転車でいだけども、もみじ
ラインの入口の料金所が近づくにつれて坂道ばかりになり、そ
れもどんどん急になるので、これから先がだんだん不安
になる。料金所をすぎると、私は目の前につらなる道が
壁に見えてきた。ああ、存人と上の方まで道があるのだろう。
前方を見上げると緑の山はだまうねりながら道が上へと登って

行くのが見える。必死で登って行くと、体中が熱くなり、さっきは柔らかかった初夏の日差しが、こんどは照りつける真夏の日差しになってきた。ふと気がついて下を見ると、今まで登ってきた道が下の方に細く見える。よくまあ自転車でこんなに登れるなあと自分で感心しながらエイッコラエイッコラペタルをこぐ。さらに登って行く。その後の風景など覚えていない。たまたまアスファルトの道路と中央の白線と強い日差しだけが気憶にある。後に知った言葉だが、パーア、といったのだろう。先輩(誰であれ、たかは、きりしなり)の少しは休めという声だったので、木陰で少々休憩をとる。以後、休憩をいんば人にするようになる。休んで登り始めると、しばらくの間はリキが速いのだが、またすぐ休みを取る前よりひどい疲れがドット出てくる。ときかく登って登って、途中で足がついた人(この人は、以後足つりの名人となる。)を追い抜いて、やっと峠の頂上に着いた。頂上に着いた時はもう最高の喜び、生きかえった気分だった。登っている途中では、体中が暑いという感覚だけしかなかったが、頂上に着くと、涼しい山の微風を感じるようになった。頂上から少し下った所にある店で、先に登っていた人達が待っていた。そこで食事を取ったのだが、私には食欲がなかった。疲れと睡眠不足のせいだったのだろう。店の前の道を、反対から登ってきた別のサイクリスト達が必死に通過していった。

しばらく休んで、写真を撮ったりした後、再び出発。こんどは
下りばかりのダウンヒルコース、もう楽だ。大型の観光バスが
店の前を通過するのを待ってから、私達は順々に出発して行っ
た。まったくの下りばかりなのでスピードが出る。自転車
でこんなにスピードを出したのは私にとって初めての経験だ
った。スピードが出るのはいいが、なにせ山の道なのでカーブ
がやたらと多い。曲がり切れずに山に激突したり谷へ落ちたり
しないように、なごと言う先輩達の注意を聞くとなんだかゾッ
とする。センターラインを越える人は続出した。しばらく下る
と先ほどの観光バスに追いついた。そのバスの横を猛スピード
で自転車が追いぬいて行く。後ろから見てみると、巨象にハチ
がまとわりついて見えるように見える。バスの運転手も、自転車
をひくのではなにかとびやひやだったろう。車間距離を無視し
センターラインも無視し、中にはブレーキに非鳴を上げさせな
がら、猛スピードで峠を下り、下界へと到着した。その後はた
だの平らな舗装道路の上を走って、西那須野駅に着いた。駅前
の食堂でビールを飲んだり、食事をとったりして、この日の予
備予備フリーランはその場で解散となった。

さて、予備予備フリーランが終って、113113と感想を考えて
見ますと、まず、連続した登り道はなめてきついのだろう、と
思った。登っている途中でなんでここを自転車で登らなければ

ならないのだらうと疑問に思ったりもした。登っている途中で車に乗ったイカしたようなお姉ちゃん達に、ガンバッテなどと声をかけられたりしたが、その時は自動車は乗でいいなと思ったりもした。しかし頂上でのあの充実感は、車で登ってきた人には味わえないだらう。登りのきつさと共に、下りのおもしろさも同時に体験できた。峠のダウンヒルはほんとうに楽しい。ただしケガをしなければの話だが、どうやら、我がサイクリンク部にはダウンヒルで事故り、その後の伝説にもなったほどの名場面がたくさんあるらしい。私は伝説の人物にはなりたくなないので充分注意しようと思っております。

さて、ここまでつれづれなるままにそこはかとなく書いてきました。もう話のネタがきれたのでここらへんでおしまいたします。 おわり